

## 秋田市この一年 平成21年を振り返る

年賀状の発売が始まり、今年の大ニユースあれこれといったことが話題になる季節になりました。1年の時の流れの速さに今さらながら驚いているところです。

私にとって今年最大の出来事は、何とんでも市政運営を担う身になったことです。今でもその責任の重さと使命の重大さに心が引き締まる思いです。「秋田市を元気にしたい」という信念と夢の実現に向けて、一步一步着実に歩を進めてまいります。

さて今回は「秋田市この1年」と題し、私なりに今年を振り返ってみたいと思います。今年には市制施行120周年にあたることから、市民参加のもと、さまざまな事業やイベントが繰り広げられました。5月には西部市民サービスセンター・ウェスターがオープンし、市民協働・都市内地域分権の新たな門出となりました。

7月12日、市の記念日の式典では、女優の浅利香津代さんの朗読や映像で秋田市120年の歩みを振り

返り、漫画家の倉田よしみさんのデザインによる秋田市の絆づくりキャラクター・テツテがお披露目されています。

9月、市内のお菓子屋さんたちが米粉を使って取り組んだ「新スイーツ発掘フェア」では、秋田市の新たな名物「あきたロール」が誕生しました。

11月の種苗交換会や同時開催の「農林商工フェア・ジョヤサ」も大盛況でした。そして20代の学生など若者の企画・運営で実現した「秋だし、あきた市」。「しあわせいっぱい腹一杯 秋田井ぶり感情」と題した記念井ぶりコンテストや千秋公園での水上火振りかまくらなどは記憶に新しいところです。

何より私がうれしく思ったのは、たくさんの方の行事に多くの市民のみなさんが参加してくれたこと、それも企画段階からの参加者の増加が顕著だったことです。このことは、今後の市民協働の姿を表しているようでもあり、頼もしい限りです。



テツテも多忙の1年となりました

駆け足で平成21年を振り返りました。努めて明るい話題を、と思いましたが、依然厳しい状況が続く経済・雇用の問題、地球温暖化、少子化と人口減少、自殺の増加、そして目を覆いたくなるような痛ましい事件の続発など、避けては通れない重要な問題が山積しています。これらに対しては、私の政治信条でもありますが「一つ一つ具体的に行動する」ことにより、展望を切り開いていきたいと考えています。

明年もどうぞよろしく申し上げます。

◆秋田市ホームページで市長の動向や記者会見の内容などをお伝えしています。

「市長ほっとコーナー」<http://www.city.akita.akita.jp/>



市民ミーティングで  
(11月10日、アルヴェ)



## 12月は地球温暖化防止月間です！

### 温暖化防止をテーマに 高校生と市長が懇談

11月10日、アルヴェエで市民ミーティングが開かれ、高校生たちと穂積市長が地球温暖化防止をテーマに語り合いました。

参加した26人の高校生からは、「風力発電や太陽光発電に積極的に取り組むべき」「公共交通機関をもっと利用すべき」などの意見や「消しゴムなど小さなものにもエコポイントをつける」などのアイデアもたくさん出ました。穂積市長も若いみなさんの熱い声をしっかりと受け止めていました。



市長もグループ討議に加わり、和やかな雰囲気です。リサイクルの話題などを話し合いました。

参加企業募集！

## 年末年始はプラグを抜いて省エネ！

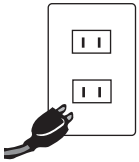
市では、「年末年始コンセントオフ運動」として、休み期間中に電気機器のプラグをコンセントから抜いて待機電力を減らし、省エネを実践してくれる事業者を募集します。参加してくれた事業者はホームページなどに掲載します。

**実施方法**  
仕事納めの日の業務終了時に電気機器のプラグをコンセントから抜き、仕事始めの日から再度使用する

### 対象機器

パソコン、プリンター、コピー機、シュレッダー、エアコン、ストーブ、テレビ、温水洗浄便座、給湯器など、電源プラグを抜いても支障がない機器

※対象機器の特性を考慮して  
取り組んでください。



### 結果

事業者名、実施結果、取り組みの内容などをホームページ、秋田市環境基本計画年次報告書などに掲載します

### 実施内容の報告

- 取り組んだ機器名、台数、日数
- 他の省エネへの取り組み
- 担当者名、ホームページの有無

来年1月15日(金)まで、次の内容を環境企画課へEメールで報告してください。詳しくは環境企画課のホームページ。Eメール ro-evrc@city.akita.akita.jp (0063)60602

### 実施期間

12月29日(火)～1月3日(日)

※営業日が実施期間と異なる事業者は取り組める範囲内。実施期間が繁忙期の事業者は他の省エネの取り組みでも応募可。

## きめ細かい電力管理で 省エネルギーを実践

マックスバリュ東北(株)の  
二酸化炭素削減の取り組み



北東北を中心に90店舗(市内4店舗)のスーパーマーケットを展開するマックスバリュ東北(株)。平成24年度までに、CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)排出を平成18年度と比べて30%削減することを目標にさまざまな取り組みを行っています。

最も力を入れているのは会社全体のエネルギー消費の7割を占める「電力」を抑えること。店舗ごとの電力使用量を監視するシステムを市内3店舗に導入して、きめ細かい電力管理を行っています。マックスバリュ本部CO<sub>2</sub>削減担当の長谷川敏男さんは「システムを導入したことで各店舗が小まめな消灯やエアコンの温度調整などを行い、省電力に積極的に取り組む意識が高まりました」と話します。同社はこのほか、大型リサイクルボックスの設置や植林など、社員一丸となって環境対策に取り組んでいます。わたしたちも負けずに省エネに努め、みんなで力を合わせて地球温暖化を防止しましょう。



監視システム導入で昨年は10%の省電力を達成！



大型リサイクルボックスを設置して食品トレイなどを回収しています(写真右が長谷川さん)